

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

観点 5-1-①: 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

【観点到る状況】

教育課程は、本学の理念(資料 5-1-①-A)を実現するため、広島大学通則第 2 条の 2 に教育研究上の目的を掲げ、同通則第 19 条に教育課程の編成について規定し、これらに基づき体系的に編成している。(資料 5-1-①-B)。

また、長期的視野に立った教育の質的向上を図るため、「教育目的と卒業生像・修了生像を明確にし、到達目標型教育による教育の質的向上を図る」ことを第一期中期目標期間(平成 16 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの 6 年間)の教育に関する目標として掲げ(資料 5-1-①-C)、その目標を実現させるための到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))を整備している(資料 5-1-①-D, E)。

授業科目は、教養教育科目と専門教育科目に区分して編成しており、教養教育科目の区分及び教育目標は資料 5-1-①-F に示すとおりである。専門教育科目は、各学部の教育目的(別添資料 II-8)に沿って、各教育課程の特徴(資料 5-1-①-G)を活かすようにして授業科目を配置している。各学部の教育課程では、到達目標に沿って教養教育科目と専門教育科目を配置(資料 5-1-①-H)し、相互が補い合うものとしている。

資料 5-1-①-A 理念

(理念)

第 4 条 本学は、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、次に掲げる理念に基づき、未来を担う有能な人材を養成するとともに学術を継承・発展させ、もって地域社会及び国際社会の発展に貢献するものとする。

- (1) 平和を希求する精神
- (2) 新たな知の創造
- (3) 豊かな人間性を培う教育
- (4) 地域社会・国際社会との共存
- (5) 絶えざる自己変革

(出典：広島大学学則)

資料 5-1-①-B 教育研究上の目的、教育課程の編成及び履修方法等

(教育研究上の目的)

第 2 条の 2 学部は、本学の理念に立脚し、それぞれ固有の教育目標を明確に掲げるとともに、その目標を達成するための教育研究を通じて、基礎力と応用力を兼ね備えた柔軟性に富む人材を育成することを目的とする。

(略)

(教育課程の編成及び履修方法等)

第 19 条 本学の教育課程は、本学の理念に基づき、学部及び学科又は類等の特色を生かして、教育上の到達目標を達成するために必要な授業科目を開設し、教育プログラムとして、体系的に編成するものとする。

- 2 授業科目は、教養教育科目及び専門教育科目に区分する。
- 3 前項に規定する授業科目及びその履修方法は、教養教育に関する規則及び各学部細則で定める。
- 4 教育課程の履修上の区分として、細目の区分を設ける必要があるときは、各学部細則の定めるところによる。
- 5 教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(出典：広島大学通則)

資料5-1-①-C 教育に関する目標

<p>II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 理念5原則の第一に掲げる「平和を希求する精神」を踏まえ、教育研究等の質の向上を図る。</p> <p>1 教育に関する目標 「豊かな人間性を培う教育」を理念に掲げ、教育目的と卒業生像・修了生像を明確にし、到達目標型教育による教育の質的向上を図る。</p>
--

(出典：国立大学法人広島大学中期目標)

資料5-1-①-D 到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))の概要

<p>(種類)</p> <p>第2条 教育プログラムの種類は、その教育目的により、主専攻プログラム、副専攻プログラム及び特定プログラムとする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、教育職員免許状の取得を目的とするプログラム等、その履修の形態により特別に定めるプログラムを教育プログラムとして編成することができる。</p> <p>第3条 主専攻プログラムとは、学位の取得を目的として、教養教育及び専門教育を全学年間に一貫的及び調和的に複合させるように編成するプログラムをいう。</p> <p>2 主専攻プログラムは、学生が所属する学部及び学科又は類等(以下「学部・学科等」という。)内で編成するプログラム及び学部・学科等をまたがって編成するプログラムとする</p> <p>3 前項に定める学部・学科等をまたがって編成するプログラムのうち、学問分野をそのプログラムに関係する学部の一つに特化しない学部横断的なプログラムを学部横断型プログラムと称する。</p> <p>4 主専攻プログラムの履修に関し必要な事項は、学部が定める。</p> <p>第4条 副専攻プログラムとは、学士課程教育の多様性を確保するとともに、学生の多様な能力、適性及び学習意欲に応え、学生に主専攻プログラムと併行して異なる分野の学習機会を提供することを目的として編成するプログラムをいう。</p> <p>2 副専攻プログラムの履修資格は学部が定め、その他履修に関し必要な事項は別に定める。</p> <p>第5条 特定プログラムとは、特定のテーマに基づく学習又は資格の取得を目的として編成するプログラムをいう。</p> <p>2 特定プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。</p>
--

(出典：広島大学教育プログラム規則)

資料5-1-①-E 学部・学科等と教育プログラムと取得学位

学部名	学科・類・コース・専攻等	主専攻プログラム名	学位名称	
総合科学部	総合科学科	地域文化プログラム	総合科学	
		社会文化プログラム		
		人間文化プログラム		
		言語文化プログラム		
		行動科学プログラム		
		スポーツ科学プログラム		
		生命科学プログラム		
		数情報科学プログラム		
		総合物理プログラム		
		自然環境科学プログラム		
	オプション・インテグレーション (自主編成)プログラム			
文学部	人文学科	哲学・思想文化学プログラム	文学	
		歴史学プログラム		
		地理学・考古学・文化財学プログラム		
		日本・中国文学語学プログラム		
		欧米文学語学・言語学プログラム		
教育学部	第一類 (学校教育系)	初等教育教員養成コース	初等教育教員養成プログラム	教育学
		特別支援教育教員養成コース	特別支援教育教員養成プログラム	
	第二類 (科学文化教育系)	自然系コース	中等教育科学(理科)プログラム	
		数理系コース	中等教育科学(数学)プログラム	
		技術・情報系コース	中等教育科学(技術・情報)プログラム	
	第三類 (言語文化教育系)	社会系コース	中等教育科学(社会・地理歴史・公民)プログラム	
		国語文化系コース	中等教育科学(国語)プログラム	
		英語文化系コース	中等教育科学(英語)プログラム	
	第四類 (生涯活動教育系)	日本語教育系コース	日本語教育プログラム	
		健康スポーツ系コース	健康スポーツ教育プログラム	
人間生活系コース		人間生活教育プログラム		
音楽文化系コース		音楽文化教育プログラム		
	造形芸術系コース	造形芸術教育プログラム		

学部名	学科・類・コース・専攻等		主専攻プログラム名	学位名称
教育学部	第五類 (人間形成基礎系)	教育学系コース	教育学プログラム	教育学
		心理学系コース	心理学プログラム	心理学
法学部	法学科	昼間コース	公共政策プログラム ビジネス法務プログラム	法学
		夜間主コース	法政総合プログラム	
経済学部	経済学科	昼間コース	現代経済プログラム	経済学
		夜間主コース	経済・経営統合プログラム	
理学部	数学科		数学プログラム	理学
	物理科学科		物理学プログラム	
	化学科		化学プログラム	
	生物科学科		生物学プログラム	
	地球惑星システム学科		地球惑星システム学プログラム	
医学部	医学科		医学プログラム	医学
	保健学科	看護学専攻	看護学プログラム	看護学
		理学療法学専攻	理学療法学プログラム	保健学
		作業療法学専攻	作業療法学プログラム	
歯学部	歯学科		歯学プログラム	歯学
	口腔健康科学科	口腔保健衛生学専攻	口腔保健衛生学プログラム	口腔健康科学
		口腔保健工学専攻	口腔保健工学プログラム	
薬学部	薬学科		薬学プログラム	薬学
	薬科学科		薬科学プログラム	薬科学
工学部	第一類(機械システム工学系)		機械システム工学系プログラム	工学
	第二類(電気・電子・システム・情報系)	電子システムプログラム		
		電気電子工学プログラム		
		システム工学プログラム		
		情報工学プログラム		
	第三類(化学・バイオ・プロセス系)	応用化学プログラム		
		化学工学プログラム		
		生物工学プログラム		
	第四類(建設・環境系)	社会基盤環境工学プログラム		
		輸送機器環境工学プログラム		
		建築プログラム		
	生物生産学部	生物生産学科		
水産生物科学プログラム				
動物生産科学プログラム				
食品科学プログラム				
分子細胞機能学プログラム				

(出典：教育プログラム実施要綱)

資料5-1-①-F 教養教育科目区分と教育目標

科目区分		教育目標
共通科目	教養ゼミ	入学後の早い段階から知的活動への動機づけを高めることによって自主的な学習を促し、科学的な思考方法及び適切な自己表現能力を養う。
	外国語科目	幅広いコミュニケーションの基盤となる外国語の運用能力を養うと同時に、多言語・多文化への理解を深めるために、様々な外国語を活用することができる知識・技能を養成する。
	情報科目	情報の受発信を適切に行い、情報メディアを正しく評価、利用するために必要な基礎知識及び技術を習得させる。
教養コア科目	パッケージ別科目	21世紀の教養とは何かを理解し、将来にわたって学ぶべきことがらを自ら設計できる能力を養う。
	総合科目	学問最前線の話題や現代社会の直面する問題に関して、ものごとを多角的に理解し、事象を広い視野から総合的・複眼的にとらえる姿勢を養う。現代社会を見る視野を広げ、自ら課題を発見し、解決することができる自学自習の力を身につけさせる。
	領域科目	人類の蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたか、その根本の考え方とはどのようなものかを学ばせる。人文科学・社会科学・自然科学の3領域と、複合・外国語の2領域それぞれの学問分野の知識とそのよって立つ考え方を主眼とする。
基盤科目		専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として、それぞれの専門分野の論理的骨格や学問形成に不可欠な基礎をなす知識と技術を習得させる。

科目区分	教育目標
スポーツ実習科目	現代スポーツの多様な価値を理解させ、自己の特性やスポーツの技能水準にふさわしいスポーツ種目を選び、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度やマナー、協調性などの社会的スキルを養う。

(出典：広島大学教養教育科目履修規則)

資料5-1-①-G 各学部・学科の教育課程編成の特徴

学部名	教育課程編成の特徴
総合科学部	総合科学部は1学科であり、「既存の学問分野の枠を越え、より広い視野で世界を見ようと考えている」学生を育てることを目標としている。また、本学部は、教養教育の主たる担当部局であるので、教養教育(52単位)と専門教育(76単位)を一体化した高度教養教育を目指して、科目を配置している。
文学部	人文科学全般を見渡せる視点を養いつつ、専門領域ごとに確立された伝統的な学問の基礎を学び、次第に発展的課題へと学習を深化させ、本学部の到達目標である卒業論文作成へと学生を誘うように、授業科目を組み立てている。授業の大半は、少人数の演習形式で行われ、学生自らが調査研究した成果を発表し、質疑応答の応酬の中から自ら問題点を発見し、論理的な思考と豊かな表現力を錬磨する場となっている。この対話型少人数教育を通して教育目標の達成を図るといのが、文学部教育の特徴である。
教育学部	第一類の「初等教育教員養成プログラム」「特別支援教育教員養成プログラム」では、卒業要件を満たせば、教員免許が取得できる。また、第二類から第五類において開設されている「教育プログラム」では、卒業要件を満たしても、教員免許取得とはならないが、これらのプログラムを提供するコースでは、歴史的に多くの中等教育教員を輩出しており、社会及び学生のニーズも高いため、卒業要件にわずかな授業科目を付加することによって、各プログラムの特性に応じた教員免許が取得できるようになっている。さらに、他プログラムの授業も受講可能とし、他の校種(教科)の教員免許も取得可能な教育課程となっている。
法学部	法学部は、東広島キャンパスに昼間コース、広島市東千田キャンパスに夜間主コースを設置している。昼間コースには「公共政策プログラム」、「ビジネス法務プログラム」、夜間主コースには現職の公務員や企業人も多数在籍する「法政総合プログラム」の、3つの教育プログラム制を実施している
経済学部	大きな特徴は、2つのキャンパスに2つの異なる学習コースを用意していることである。東広島キャンパスの昼間コースは「現代経済プログラム」を、東千田キャンパスの夜間主コースは「経済・経営統合プログラム」を提供している。「現代経済プログラム」は、現代社会の様々な経済問題を発見し、解決するために必要な理論的・実証的な経済分析能力の養成を目標とし、「経済・経営統合プログラム」は、経済学・経営学・会計学・情報科学などの総合的な素養を習得し、現代社会が抱える複雑な諸問題を積極的に発見し解決できる人材の養成を目標としている。そして、昼間コースでは演習・卒業論文指導で、夜間主コースでは演習を通じて、少人数教育を行っている。
理学部	本学部では「ゆるやかな学部・大学院一貫教育」を目指したカリキュラム編成を教育課程の基本方針としている。同時に、本学部のカリキュラムは、広島大学中期目標及び本学部の教育目標を達成すべく編成されており、以下の特徴を備えている。 (1) 入学生の知識・学力を十分配慮した上で、基礎から専門科目まで体系的に教育できるようにカリキュラムを編成している。さらに、平成18年度から到達目標型教育プログラム(HIPROSPECTS(R))が導入され、教育の到達目標がより明確となった。 (2) 教育プログラム制導入とともに、教養教育と専門教育と整合性の向上を目指して基盤科目群を設定し、学士課程教育全般にわたる専門性を強化した。 (3) 開放制教員養成課程としての機能を十分に果たすことができるよう、年次ごとの授業科目の配置を工夫している。
医学部	医学科の教育課程は、卒業時に医師として必要な知識・技能・態度が備わるよう体系的に編成されている。本学では平成18年度より、到達目標を明確にした教育プログラム制を施行しているが、医学科ではそれに先駆け到達目標型教育を施行しており、各学年においてその到達度がチェックされ、進級判定が行われる。臨床実習前には、共用試験を行い、総合的な到達度を評価している。保健学科の教育課程は、各専攻プログラムに定められた到達目標に沿って、講義、演習、実習をバランスよく行っている。積極的にティーチング・アシスタントを採用し、講義、演習、実習できめ細かい指導を行っている。臨床実習前には必要な知識・技術について実技試験を行い、臨床実習では、担当教員が実習先を訪問して密接に連絡をとり、問題発生を防止しながら実習効果を高めるよう努めている。
歯学部	歯学科では、歯科医師に必須の基盤的教育を行うと共に、歯科医学・医療の発展を主導する人材を養成するために、コース制教育を行っている。2つのコース制教育では、最先端歯学研究コースにより、将来歯科医学の研究者や教育者、科学的探求心を持った歯科医師の養成を目指し、臨床歯科医学コースにより、高度な歯科医療の知識・技術を身につけ、歯科医療分野においてリーダーシップを発揮できる歯科医師の養成を目標としている。口腔健康科学科は歯科医療の更なる充実・発展を目的として平成17年度に設置され、2つの専攻からなる。口腔保健衛生学専攻は我が国では数少ない4年制の歯科衛生士養成校であり、教養教育を重視すると共に、高度先進医療に対応できるよう教育内容の充実を図っている。また、養護教諭1種免許も取得できる。口腔保健工学専攻は歯科技工士養成校としては我が国唯一の4年制である。各分野のリーダーとなりうる人材の育成を目指している。

学部名	教育課程編成の特徴
薬学部	薬学部の教育課程の特徴として、 (1) 薬学科、薬科学科ともに1年次の教養教育の充実を図っていること、教養ゼミを活用し薬学以外の医療系学生と共に学ぶ場を提供していること (2) 薬学科では、「薬学教育の初期段階において、倫理観、使命感を身につけさせた上で、患者や他職種の医療スタッフとのコミュニケーションが十分行える薬剤師を養成するための教育」(文部科学省医療人GP)を開始したこと、併せて研究マインドを醸成するためのカリキュラムを構築していること (3) 薬科学科では、薬学研究方法論演習を新たに導入し幅広い研究領域に触れる機会を提供するなど研究者育成の基盤となるカリキュラムの充実を図っていること などがあげられる。
工学部	類(系)制度により、類(系)単位で専門課程の専門細目分野を組み合わせて履修させる複合履修標準課程を用意し、機械、電気・電子、情報、化学、バイオ、プロセス、建築、土木、環境など、工学に関する専門教育の多様化と裾野の広がりに対応した教育を行っている。
生物生産学部	生物生産学部は、1学部1学科制の下、幅広い教養教育と共通専門基礎教育の履修後に、到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))としての5つの主専攻プログラムを選択、履修させている。主専攻プログラムは、各専門領域に適合した体系的なカリキュラムによって構築され、生物生産に関わるフィールド科学、自然科学から社会科学及び幅広い知識と技能、柔軟な思考力と俯瞰的な見地を身につけさせながら、専門的応用展開能力を涵養させている。

(出典：各学部の自己点検・評価)

資料5-1-①-H 教養教育科目・専門教育科目の最低修得単位配分

学部名	学科・類・コース・専攻等	教養教育	専門教育	その他	単位数計	教養教育の割合	その他の名称	
総合科学部	総合科学科	52	76		128	40.6%		
文学部	人文学科	48	76		124	38.7%		
教育学部	第一類 (学校教育系)	初等教育教員養成コース	31	99		130	23.8%	
		特別支援教育教員養成コース	31	97		128	24.2%	
	第二類 (科学文化教育系)	自然系コース	36	92		128	28.1%	
		数理系コース	40	88		128	31.3%	
		技術・情報系コース	44	84		128	34.4%	
	第三類 (言語文化教育系)	社会系コース	32	96		128	25.0%	
		国語文化系コース	34	94		128	26.6%	
		英語文化系コース	32	96		128	25.0%	
	第四類 (生涯活動教育系)	日本語教育系コース	46	82		128	35.9%	
		健康スポーツ系コース	44	84		128	34.4%	
		人間生活系コース	40	88		128	31.3%	
		音楽文化系コース	36	92		128	28.1%	
	第五類 (人間形成基礎系)	造形芸術系コース	46	82		128	35.9%	
教育学系コース		46	82		128	35.9%		
心理学系コース	心理学系コース	46	82		128	35.9%		
	教育学系コース	46	82		128	35.9%		
法学部	法学科	昼間コース	34	78	12	124	27.4%	自主選択枠
		夜間主コース	32	72	20	124	25.8%	
経済学部	経済学科	昼間コース	44	68	12	124	35.5%	自由科目
		夜間主コース	38	66	20	124	30.6%	
理学部	数学科	43	80	5	128	33.6%	科目区分を問わない	
	物理科学科	42	78	8	128	32.8%		
	化学科	44	78	6	128	34.4%		
	生物科学科	41	77	10	128	32.0%		
	地球惑星システム学科	51	71	6	128	39.8%		
医学部	医学科	46	142		188	24.5%		
	保健学科	看護学専攻	40	95		135	29.6%	
		理学療法専攻	40	89		129	31.0%	
		作業療法専攻	40	92		132	30.3%	
歯学部	歯学科	50	156		206	24.3%		

学部名	学科・類・コース・専攻等	教養教育	専門教育	その他	単位数計	教養教育の割合	その他の名称
	口腔健康科学科	口腔保健衛生学専攻	30	97		127	23.6 %
		口腔保健工学専攻	30	95		125	24.0 %
薬学部	薬学科		44	145		189	23.3 %
	薬科学科		40	85		125	32.0 %
工学部	第一類(機械システム工学系)		49	75		124	39.5 %
	第二類(電気・電子・システム・情報系)		47	77		124	37.9 %
	第三類(化学・バイオ・プロセス系)		48	76		124	38.7 %
	第四類(建設・環境系)		49	75		124	39.5 %
生物生産学部	生物生産学科		48	80		128	37.5 %

(出典：各学部細則)

参照資料：*別添資料5-1-①-1 広島大学教育プログラム規則
別紙資料 平均入学定員充足率計算表(広島大学)
別添資料Ⅱ-1 国立大学法人広島大学中期目標
別添資料Ⅱ-3 広島大学学則
別添資料Ⅱ-4 広島大学通則
別添資料Ⅱ-8 学部・学科の教育研究上の目的
*別添資料2-1-②-1 広島大学教養教育科目履修規則
別添資料2-1-②-7 教育プログラム実施要綱

* 別添資料5-1-①-1, 2-1-②-1については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学士課程における教育課程は、教養教育の目的と専門教育の目的に沿って、それぞれの区分に属する各科目・授業が効果的な連携を図りながら配置するよう、編成している。また、各学部・学科等の教育目的と卒業生像・修了生像を明確にした、到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))を全学で展開し、各プログラムは授与する学位に相応したものとなっている。

以上により、教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目を適切に配置し、教育課程を体系的に編成している。

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

学生の多様な学習ニーズに応えるため、到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))において、資料5-1-②-Aに示すとおり主専攻プログラムと並行して学習する機会を提供するための副専攻プログラム及び特定プログラムを平成18年度から実施している(特定プログラムの登録出願状況は別添資料5-1-②-1のとおり)。

副専攻プログラムについては、学生のニーズを反映して平成21年度入学生から形態を変えて提供している。

また、資料5-1-②-Bに示すとおり、他学部の授業科目の履修を可能としているほか、平成21年度入学生から大学院の授業科目を学部学生の段階で早期に履修する制度を構築した。さらに、資料5-1-②-Cに示すインターンシップ、資料5-1-②-Dに示す補充教育などを実施している。

各学部での取組状況(他大学との単位互換、学部独自のインターンシップ、大学以外の教育施設等での学修及び入学前の既修得単位の認定)は資料5-1-②-E~Hに示すとおりである。

学術の発展動向への配慮では、前掲資料3-3-①-Aに例示したとおり、研究成果を授業科目に反映している。社会からの要請等への配慮では、1例として、企業アンケートの「教育・人材養成面の期待」での回答として、「基礎学力」「優れた技術者」「即戦力」「国際性」への期待が多く、学部段階の教育を充実させることが求められており、それにも対応するため、平成18年度から到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS(R))を導入し、明確な到達目標を設定した基礎から専門科目まで体系的に学ぶカリキュラムを提供している(企業アンケートの結果は、別添資料6-1-⑤-1 P30, 6-1-⑤-2 P54 参照)。

文部科学省大学教育改革支援プログラム等(特色GP, 現代GP, 質の高い大学教育推進プログラム等)に採択されたプログラムの実施状況は、資料5-1-②-Iに示すとおりである。

資料5-1-②-A 副専攻プログラム及び特定プログラム一覧

【副専攻プログラム】

平成18年度～平成20年度入学生対象の副専攻プログラム(6プログラム)

提供部局	プログラム名
総合科学部	地域研究副専攻プログラム
文学部	地域史副専攻プログラム
	フィールド文化環境学副専攻プログラム
	ことばと文芸副専攻プログラム
経済学部	経済学副専攻プログラム
理学部	化学と生命副専攻プログラム

平成21年度以降入学生対象の副専攻プログラム(51プログラム)

提供部局	プログラム名
総合科学部	地域文化副専攻プログラム
	社会文化副専攻プログラム
	人間文化副専攻プログラム
	言語文化副専攻プログラム
	行動科学副専攻プログラム
	スポーツ科学副専攻プログラム
	生命科学副専攻プログラム
	数理情報科学副専攻プログラム
	総合物理副専攻プログラム
	自然環境科学副専攻プログラム
文学部	哲学・思想文化学副専攻プログラム
	歴史学副専攻プログラム
	地理学・考古学・文化財学副専攻プログラム
	日本・中国文学語学副専攻プログラム
	欧米文学語学・言語学副専攻プログラム
教育学部	初等教育教員養成副専攻プログラム
	特別支援教育教員養成副専攻プログラム
	中等教育科学(理科)副専攻プログラム
	中等教育科学(数学)副専攻プログラム
	中等教育科学(技術・情報)副専攻プログラム
	中等教育科学(社会・地理歴史・公民)副専攻プログラム
	中等教育科学(国語)副専攻プログラム
	中等教育科学(英語)副専攻プログラム
	日本語教育副専攻プログラム
	健康スポーツ教育副専攻プログラム
	人間生活教育副専攻プログラム
	音楽文化教育副専攻プログラム
	造形芸術教育副専攻プログラム
	教育学副専攻プログラム
	心理学副専攻プログラム
法学部	公共政策副専攻プログラム
	ビジネス法務副専攻プログラム

提供部局	プログラム名
経済学部	現代経済副専攻プログラム
理学部	化学副専攻プログラム
	地球惑星システム学副専攻プログラム
工学部	機械システム工学系副専攻プログラム
	電子システム副専攻プログラム
	電気電子工学副専攻プログラム
	システム工学副専攻プログラム
	情報工学副専攻プログラム
	応用化学副専攻プログラム
	化学工学副専攻プログラム
	生物工学副専攻プログラム
	社会基盤環境工学副専攻プログラム
	輸送機器環境工学副専攻プログラム
	建築副専攻プログラム
生物生産学部	生物圏環境学副専攻プログラム
	水産生物科学副専攻プログラム
	動物生産科学副専攻プログラム
	食品科学副専攻プログラム
	分子細胞機能学副専攻プログラム

【特定プログラム】 (10プログラム)

分類	プログラム名
特定のテーマに沿って学ぶプログラム	国際協力特定プログラム
	情報メディア教育特定プログラム (コンピュータサイエンスコース)
	情報メディア教育特定プログラム (情報デザインコース)
	英語プロフェッショナル養成特定プログラム
	ドイツ語プロフェッショナル養成特定プログラム
	臨床総合医科学特定プログラム
資格取得を目指すプログラム	学芸員資格取得特定プログラム (美術系) (歴史・考古系) (自然系)
	社会調査士資格取得特定プログラム
	社会教育主事基礎資格特定プログラム
	学校図書館司書教諭資格取得特定プログラム

(出典：教育プログラム実施要綱)

資料5-1-②-B 他学部、大学院の授業科目の履修

(他の学部の授業科目の履修)

第25条 学生は、第23条第2項の所定の授業科目のほか、他の学部の授業科目を履修することができる。

2 学生が他の学部の授業科目を履修しようとするときは、所属学部及び当該学部の定めるところにより履修するものとする。

(大学院授業科目の履修)

第26条 学生が、本学大学院に進学を志望し、所属学部が教育上有益と認めるときは、学生が進学を志望する研究科の長の許可を得て、当該研究科の授業科目を履修することができる。

2 学生が、本学大学院の授業科目を履修することに関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程の修了)

第23条 学生は、在学中所定の教育課程を修了しなければならない。

2 教育課程の修了は、所定の授業科目を履修の上、単位を修得することによる。

(出典：広島大学通則)

年度別学部別履修状況 (他所属の受講者延べ人数)

(単位：人)

学部名	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
総合科学部	1, 390	1, 582	1, 672	1, 402	1, 358	
文学部	472	509	446	625	563	
教育学部	4, 787	4, 488	4, 818	4, 684	4, 990	
法学部	356	799	415	783	452	
経済学部	681	273	800	282	580	
理学部	147	185	209	120	182	
医学部	9	23	4	76	695	

学部名	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備 考
歯学部	0	6	3	0	0	
薬学部	—	—	0	0	0	H18新設
工学部	314	230	131	125	114	
生物生産学部	164	134	68	118	188	
計	8,320	8,229	8,566	8,215	9,122	

(注) 教養教育の単位修得状況は除く (出典：大学での集計)

資料5-1-②-C インターンシップの実施状況

(単位：人)

インターンシップ名	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	合 計
広島大学全学 インターンシップ		11	21	20	27	79
広島県社会教育施設 インターンシップ	2	5	9	3	1	20
文部科学省夏期 インターンシップ	0	0	1	0	1	2
広島県経営者協会 インターンシップ	65	45	33	32		175
呉市を学ぶ インターンシップ			4			4
企業のホームページで行う インターンシップ					7	7
広島県庁 インターンシップ					2	2
計	67	61	68	55	38	289

※実施要項は別添資料5-1-②-2 参照

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-D 補充教育実施状況(平成20年度実績)

補充教育実施趣旨

VIII. 高等学校等で学習しなかった教科への学習サポート

—補充教育など—

大学での専門的な授業は、高等学校で学習すべき基礎的な内容を習得していないと、なかなか理解することはできません。例えば、人体のことを理解するためには細胞の発生過程を理解しておく必要があります。高等学校等の「生物」の授業で細胞の発生過程を学習していない場合、大学での人体に関する専門的な授業を理解することが困難になってしまいます。同様のことは、理系の基礎科目で多く見受けられます。

広島大学では、そのような教科への学習サポートとして、大学の授業を理解するのに必要な、高等学校等で学ぶべき基礎的な内容を取り扱う特別の授業を、通常の授業とは別に実施します。これを「補充教育」といいます。

「補充教育」の毎回の授業は、大学の授業と密接に関連していて、高等学校等で学習しなかった教科であっても、補充教育の受講を通して大学の授業を理解していくことが可能となります。

また、補充教育を実施しない教科についても、高等学校等で十分に履修していない学生を対象とした科目を、通常の授業で開講しています。高等学校等で学ぶべき基礎的な内容から始めていきますので、これまで全く学習したことがないという学生も安心して受講することができます。

高等学校等で全く、又は十分に学習していない教科があるという学生に対し、「何を受講したらよいか」「その授業はいつでも行われているのか」「その授業を受講するための手続をどうしたらよいか」といった説明を新入生ガイダンスや総合科学部K棟掲示板等で行います。その説明をよく確認し、もし受講する必要がある場合は、所定の手続を経て受講するようにしてください。

(出典：学生便覧)

年度別受講登録者数

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
数 学	56	103	70
物 理	306	409	317
生 物	252	289	287
計	614	801	674

※授業日程表は別添資料5-1-②-3 参照

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-E 他大学との単位互換の実施状況

学部名	大学名	平成19年度		平成20年度	
		認定学生数	認定単位数	認定学生数	認定単位数
総合科学部	エクスター大学	3	3	—	—
	首都師範大学	1	2	—	—
	ニューイングランド大学	2	46	2	44
	ネバダ大学リノ校	3	6	—	—
	ハワイ大学	3	3	3	3
	フロリダ州立大学	1	4	—	—
	北京師範大学	—	—	1	19
	レイ・ホワン・カルロス大学	—	—	1	13
文学部	エクスター大学	4	50	9	36
	シェフィールド	2	24	—	—
	ブルゴーニュ	1	4	—	—
	ミネソタ	—	—	1	24
	ハンブルグ	—	—	2	8
	ローザンス	—	—	4	10
	ラ・トローブ	—	—	1	16
教育学部	エディンバラ大学	16	224	15	180
	ウォリック大学	11	154	9	108
	リーズメトロポリタン大学	14	42	9	25
法学部	放送大学	17	94	36	158
経済学部	放送大学	20	80	77	294
医学部	首都師範大学	1	2	—	—
	ハワイ大学	3	9	—	—
	エクスター大学	—	—	2	4
歯学部	放送大学	1	2	3	6
	エクスター大学	1	2	—	—
薬学部	エクスター大学	—	—	1	1
工学部	エクスター大学	1	1	1	2
生物生産学部	鳥取大学	3	6	4	8
	愛媛大学	4	8	4	8
	岡山大学	2	4	4	8
計		114	770	189	975

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-F 学部独自のインターンシップの実施状況

学部名	提携・受入企業数	平成19年度		平成20年度	
		派遣学生数	認定単位数	派遣学生数	認定単位数
法学部	提携34社	—	—	3	—
経済学部	提携34社、受入4社	9	—	4	—
工学部	66	84	78	68	63
生物生産学部	9	12	12	30	26
計		105	90	105	89

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-G 大学以外の教育施設等での学修の認定状況（広島大学通則第30条関係）

学部名	種類	平成19年度		平成20年度	
		認定学生数	認定単位数	認定学生数	認定単位数
総合科学部	TOEIC(R) IP テスト	13	30	10	18
	TOEFL(R) テスト	2	8	1	4
	実用英語技能検定試験(英検)	2	8	2	8
文学部	TOEIC(R) IP テスト	6	12	3	8
教育学部	TOEIC(R) IP テスト	28	57	27	53
	TOEIC(R) IP 公開テスト	4	9	3	6
	実用英語技能検定(英検)	2	6	1	2
法学部	TOEIC(R) IP テスト	17	42	11	24
経済学部	TOEIC(R) IP テスト	2	4	4	6
	TOEIC(R) IP 公開テスト	—	—	1	2

学部名	種 類	平成 19 年度		平成 20 年度	
		認定学生数	認定単位数	認定学生数	認定単位数
理学部	TOEIC(R) IP テスト	2	4	1	4
医学部	TOEIC(R) IP 公開テスト	1	2	3	6
	TOEIC(R) IP テスト	50	101	54	119
	TOEFL(R) テスト	—	—	1	4
	外国の大学	4	11	1	2
	実用英語技能検定(英検)	1	4	—	—
歯学部	TOEIC(R) IP テスト	4	8	3	6
薬学部	TOEIC(R) IP テスト	10	20	6	12
	TOEFL(R) テスト	—	—	1	6
工学部	TOEIC(R) IP テスト	10	30	17	40
生物生産学部	TOEIC(R) IP テスト	3	6	1	3
計		161	362	151	333

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-H 入学前の既修得単位の認定状況（広島大学通則第31条関係）

学部名	平成 19 年度		平成 20 年度	
	認定学生数	認定単位数	認定学生数	認定単位数
文学部	10	653	14	712
教育学部	3	71	1	18
法学部	2	45	2	24
経済学部	4	104	1	44
理学部	4	54	—	—
医学部	20	1,497	20	1,435
歯学部	5	34	4	48
薬学部	1	18	—	—
生物生産学部	13	929	9	671
計	62	3,405	51	2,952

(出典：大学での集計)

資料5-1-②-I 文部科学省大学教育改革支援プログラム等の実施状況

【特色ある大学教育支援プログラム】

プログラム名：高等教育のユニバーサルデザイン化（担当：教育室）		実施年度：平成16～19年度
教育への反映状況	障害学生をはじめ多様なニーズをもつ学生に対し授業における情報保障を行った。	
その効果	支援範囲の拡大、情報保障の質向上、支援体制の充実を図ることにより、学生の教育を受ける権利の保障、公平性の担保の向上が可能となり、さらに教員には誰にも分かりやすい授業を提供することの必要性、情報保障に対する意識の改善を図ることができた。その結果、学生の理解促進と教員の教授法の改善という教育内容の質的向上を図ることができた。	
プログラム名：協調演習による理学的知力の育成支援（担当：理学部）		実施年度：平成19～21年度
教育への反映状況	本取組を国内の大学及び高等学校に対して直接発信し、本事業の公表・普及につなげることができた。また、他大学で行われている取組の手法や評価法に関して情報を収集し、綿密な比較・検討結果を学部全体に浸透させた。さらに、高校教員と協議することによって大学の初修教育の問題点や改善すべき点が明らかになり、身近な題材を取り扱う教養的協調演習の実施法に改善を加えた。	
その効果	演習科目以外の講義や実験に関しても、理学部全体の学生が互いに教え合おうとする知的コミュニティの形成が促進され、学生が身近な自然現象を常に科学の目を通して見る力を養うことができた。	
プログラム名：工学系数学基礎学力の評価と保証（担当：工学部）		実施年度：平成17～20年度
教育への反映状況	工学系数学の基礎となる4分野（微分積分、線形代数、常微分方程式、確率・統計）の必須基礎事項を精選し、その達成目標と共に公開している。これらの分野と必須事項を工学系基礎数学教育における（カリキュラムに最小限含ませるべきもの、という意味での）「コアカリキュラム」の候補として全国に示して、コアカリキュラムとしての確立に向かっている。	
その効果	全国の工学系学部が上記の「コアカリキュラム」をカリキュラムに含ませる方向に動き始めている。また、このカリキュラムに基づいた授業の効果を評価する方策としてEMaT工学系数学統一試験を定着させることが、工学系数学の基礎学力保証の具体策になると認識され、その方向に着実に進んでいる。これは、企業の要請にも応えるものである。	

【現代的教育ニーズ取組支援プログラム】

プログラム名：学生提案型キャリア形成システム基盤構築（担当：キャリアセンター）	実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	フロントランナープログラムの実践において、キャリアパスガイダンスの開催やプロジェクト学習の方式を採用することで、学生の自主的・積極的取組姿勢を促すことにつながった。
その効果	社会からの要請や大学の活性化に資するため、学生たちは主体的な企画・提案力、課題発見・解決能力とともに、フィールドワークによる社会体験を通して実行力を身につけることができた。また、チームワークの重要性やコミュニケーション力育成への関心も高まり、学習や大学生活の充実につながった。
プログラム名：子どもの心と学び支援プログラムの展開（担当：教育学部）	実施年度：平成 19～21 年度
教育への反映状況	にこにこルームで、心と学び支援の実習を行っている。平成 20 年度から、心理教育的支援実習Ⅰ、心理教育的支援実習Ⅱ、心理教育的支援実習Ⅲ（いずれも通年の授業）を開設した。
その効果	実際に学習援助を経験した学生（担当群）と、学習援助を観察した学生（観察群）を比較すると、「保護者との関係」、「心理教育的支援についての知識の深まり」、「勉強の自主性」、「支援計画の立案」、「支援方法、支援技術」については、担当群の方が観察群よりできるようになったと自己評価していた。一方、にこにこルームでの実習の満足度、教育への態度、子どもとの関係、アセスメントについては両群とも評価は高かった。 このように、心理教育的支援の実践力育成については着実に成果が上がっている。
プログラム名：地域連携薬剤師高度化教育プログラム（担当：薬学部）	実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	「ロールプレイ型外来診療体験ソフト「患者百選」の拡大」の実施に伴い、「外来診療体験ソフト「患者百選」」がインターネット配信されることで、全国的に利用可能となった。これは薬学生にとっても時間と場所に関係なく臨床知識と技術を知ることが可能となり、臨床実習の事前および事後に予習・復習することで常に臨床現場を意識した教育を行うことができた。
その効果	薬学生には、大学入学後の早い時期から、臨床体験を経験でき、医療人としての自覚が芽生えると共に、将来の薬剤師像を考察する機会が得られるようになった。
プログラム名：大学間連携によるフィールド教育体系の構築（担当：生物生産学部）	実施年度：平成 16～18 年度
教育への反映状況	中国・四国地区国公立大学農学系学部との単位互換授業科目として、本学部では学部の専門科目（選択）として 1 年生前期に開講している。本 GP は平成 16 年度～18 年度までの支援であったが、平成 19 年度以降も、開講科目を増やして実施している（学生便覧）。
その効果	受講者にアンケートを実施しているが、その満足度は高い（実施報告書）。

【地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム】

プログラム名：実践的ヒューマン・コミュニケーション教育（担当：薬学部）	実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	患者の痛みが理解・共感できる薬剤師育成に向けて、実習、演習などの学習と講義を取り入れた。
その効果	学生たちは様々な患者の立場を理解する事ができる薬剤師に成長する自覚が形成された。

【質の高い大学教育推進プログラム】

プログラム名：工学系数学基礎学力の評価と保証（担当：工学部）	実施年度：平成 20 年度～
教育への反映状況	工学系数学教育に関しコア・カリキュラムを確立し、それに基づいたシラバスを作成している。また各講義に演習を付随させ基礎力の定着に力を入れている。更に数学教員が常駐する学習支援室を開設することにより学生個々人のニーズに応えたきめ細かい学習支援を行っている。
その効果	社会からの養成にも合致した、工学系学部卒業生の備えるべき数学能力が基礎学力を中心に着実に定着してきている。また、学習支援室設置により学生の学習意欲の向上にも寄与し、継続的学習に結びついている。

(出典：大学での集計)

参照資料	別添資料 5-1-②-1 特定プログラムの登録出願状況
	別添資料 5-1-②-2 インターンシップ実施要項
	別添資料 5-1-②-3 補充教育授業日程表
	別添資料Ⅱ-4 広島大学通則
	別添資料 2-1-②-7 教育プログラム実施要綱
	別添資料 学生便覧

【分析結果とその根拠理由】

学内外の多様なニーズへの配慮から、主専攻プログラムと並行した副専攻プログラム及び特定プログラムの実施、学内他学部との連携、大学院の授業科目を学部学生の段階で履修する制度の構築、インターンシップの実施、補充教育の実施、他大学との単位互換及び学部等独自の特色ある取組を行っている。

また、授業担当者は、研究活動を通じて、教育目的の実現に必要な知見の水準を確保し、研究成果を授業目的にふさわしい形で授業に反映している。

さらに、文部科学省大学教育改革支援プログラム等に多くのプログラムが採択され、教育改革を推進している。

以上により、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

観点 5-1-③： 単位の实质化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

学生の主体的な学習を促し、十分な学習時間を確保するための工夫として、平成 14 年度から情報メディア教育研究センターにおいて、復習用 LIVE 教科書を作成している（資料 5-1-③-A）。また、「学問とのであい」、「生命・医療倫理特論」のコンテンツ化を行い、シラバス連携も可能とするとともに「WebCT100 プロジェクト」を実施し、デジタルコンテンツの作成を推進している（資料 5-1-③-B）。なお、各学部の授業時間外の学習のための工夫は、資料 5-1-③-C に示すとおりである。

また、資料 5-1-③-D に示すとおり、十分な学習時間を確保するための工夫として、履修登録の上限を設定するとともに、資料 5-1-③-E に示すとおり、GPA 制度を導入している。

本学の学期の区分、1 年間の授業時間は、資料 5-1-③-F に示している。

資料 5-1-③-A ライブ授業のアーカイブ化

<p>広島大学講義アーカイブズ館</p> <p>映像ライブラリー</p> <p>復習用 LIVE 教科書 Internet Explorer でアクセスして下さい。</p> <p>Flip Book</p>		<p>復習用 LIVE 教科書</p> <p>2002年 総合科目 広島大学から世界が見える 2003年 法学部公開講座 医療行為と法 2003年 総合科学部公開講座 現代社会を生き抜くための化学知識 2003年 医学部公開講座 救急医療講座 -プレホスピタル特論- 2003年 総合科目 学問とのであい 2004年 総合科目 学問とのであい 2005年 総合科目 学問とのであい</p> <hr/> <p>※必須環境 Windows 98 / Me / 2000 / Xp Internet Explorer 6.0 Windows Media Player 9.0 ブロードバンド環境 (1Mbps)</p> <hr/> <p>topページへ戻る</p> <p>Copyright (C) 2004 Information Media Center, Hiroshima University. All Right Reserved.</p>
--	---	--

広島大学講義アーカイブズ館
URL : <http://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~live/>

復習用 LIVE 教科書
URL : <http://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~live/title.html>

(出典：本学ウェブページ)

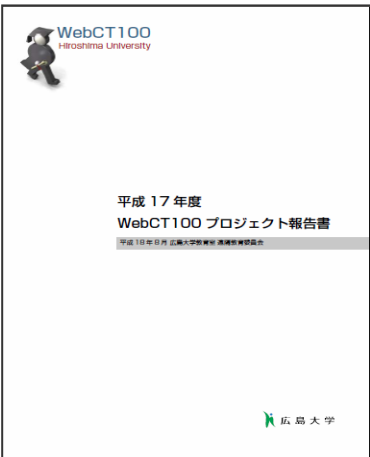
資料5-1-③-B WebCT100プロジェクト

(報告書の概要)
 教育室遠隔教育委員会では、本学の教育の情報化の一環として通常授業にCMS(コースマネジメントシステム)を試行的に取り入れることを計画し、平成17年度に全学的に参加者を募り「WebCT100プロジェクト」を行った。その実施状況、成果についてまとめ、今後の本学におけるe-Learningの方向性について提言している。

(実施状況)
 WebCT100プロジェクトには、前期39名、後期43名の教員が参加した。コース(授業科目)数は、前期52科目、後期51科目の計103科目で、そのうち約60科目が活発に利用されている。

本学では、世界でも著名なCMSのひとつ「WebCT」(ウェブ・シー・ティー)を平成13年度から利用してきました。教育情報化の一環として、平成17年度にメディアコンテンツ100科目の作成を目指す「WebCT100プロジェクト」を実施しました。

「CMS」とは、Course Management Systemの略称で、授業の設計、開発、管理等を行うコース管理システム…簡単に言うと、教員と学生が各コースの中でのやりとりを残すことにより、授業のホームページを作りあげていく仕組みです。学生側から見ると、インターネットに接続したPCさえあれば、「いつでも・どこでも・何度でも」授業の予習・復習に利用できることとなります。教員側から見れば、学生が小テストを受験したかどうか、レポートを提出したかどうかといったことだけでなく、学生の理解度がデータベースを介して把握できるようになります。また、アンケート機能で得た結果を、授業改善につなげることもできます。



WebCT100
Hiroshima University

平成17年度
WebCT100プロジェクト報告書

広島大学

(出典：WebCT100プロジェクト報告書)

資料5-1-③-C 各学部の授業時間外の学習のための工夫

学部等名	各学部の取組状況
総合科学部	教育プログラムによっては、毎年度始めに「手引き書」を配布し、学生の動機付けを高め主体的な学習を奨励する工夫(たとえば、提出するレポートの評価がAとなるための必要事項を示し、さらにS評価を得るために必要な事項を複数明示するなど)をしている。
文学部	文学部は1年の終わりに2年から分属するコースおよび専門分野を決定する。各コースの受け入れ可能な学生数の目安を設け、志望数がそれを上回れば、1年次のGPAをもとに順位を決めるという方法を採用している。この方式を入学時のガイダンスで説明し、前期末の予備調査の結果を掲示するなどして周知を図る。この結果学生の学習意欲は高められている。2年次以降も専門分野ごとに在学生ガイダンスを行い、主体的な学習を促す履修指導を実施している。
教育学部	1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成されており、授業形態により授業時間外に必要とされる学習時間が異なることを細則で定めている。また、授業時間数の1/3以上を欠席した者には、期末試験の受験資格を与えていない。それらを学生便覧に明記して、学生の学習への取組を促している。そのことは、入学式後のオリエンテーション及び各学期にチューターが指導している。過大な履修を防ぐため、履修登録の上限を設定又は指導するとともに、GPA(全学共通の平均評価点)計算において、総登録単位数を分母とすることにより、十分な学習が可能な範囲での履修登録へと導いている。
法学部	懸賞論文及び受賞者表彰の形で競争原理を導入している。毎年、20名前後の応募があり成果を出している。成績不振の学生に対して、チューターの教員が各期毎に面談して履修指導を行い、不振の状況や面談結果を父母等に通知して、家庭との連携を図っている。 1学期に登録できる履修単位の上限を、24単位に定めている。また、一定基準を上回る成績優秀の学生については、次学期に28単位まで履修登録できるように工夫している。 3・4年次での専門演習(ゼミ)を履修する前に、2年次で演習の基礎的なトレーニングを行う「基礎演習」を履修できる。 卒業論文が必修とされていない法学部で、学生が自発的に卒業研究に取り組む科目として「統合科目」があり、公共政策プログラムでの「公共政策と公私連携」、ビジネス法務プログラムの「国際社会と企業法務」の単位を修得した学生が、合計32名いる。 各授業科目のシラバスは、「プログラムの中でのこの授業科目の位置づけ」や「既修得要件等授業を受ける上での注意点」の項目によって他の科目との関連を示して体系化し、また「予習・復習へのアドバイス」、「授業内容を理解するために読むべきテキスト等」などを明示して、学生の主体的な学習を促している。

学部等名	各学部の取組状況
経済学部	<p>シラバスの充実：予習・復習へのアドバイスをを行っている。 オフィスアワーを開設し、掲示して学生に周知させている。 レポートなどの課題付加による授業時間外の学習支援を行っている。 WebCT 利用科目では、Web 経由での課題付加・提出・採点を実施している。 学業成績や TOEIC (R) IP テスト成績に関し、毎期、成績優秀者を表彰し、授業時間外での学習を推進するモチベーションを高めている。</p>
理学部	<p>各学科においては各学年に複数名の教員をチューターとして配置し、学生の相談に応じてきめ細かな履修指導、学習のアドバイス等を行っている。 教育プログラム制導入を機にシラバスに授業各回の予習・復習のアドバイスを記載している。</p>
医学部	<p>医学部では、1 年次の夏休みに早期体験実習を行い、医療現場を体験させている。2 年次の解剖学においては、実習のみではなく、献体篤志者の集う慰霊祭に参加し、医学教育を支え医学生に期待する関係者の声に触れさせている。また、学生の自主的な海外研修や留学に対し、学内での審査を経て、寄付された基金から海外渡航費の支援を行っている。さらに、学生が主体的に発案行動し活動する場合には、広島大学同窓会からドリームチャレンジ賞が授与され経済的に助成され（平成17年度開始）、社会的な評価を得た場合には学内表彰（医学部学生表彰）を行っている。 医学科では、1 年次に開講される医療行動学に少人数グループで参加し、医療ないし研究の現場に接し、勉学への意欲を高めている。2 年次の医学英語教育は外国人講師を採用し、少人数クラスでの講義で学習効果を高めている。3 年次から始まる臨床医学（系統講義）の中で、6 年次学生が卒業前に受ける実技試験（アドバンスト OSCE）の業務手伝いと被験者を担当することで、4 年次終了時に受ける通常の実技試験（OSCE）への勉学意欲を高めている。また、臨床実技の修得のためのスキルス・ラボを整備し、実技実習が行える環境と時間の拡大を図っている。チューターは、一人あたり学生10人を6年生まで継続担当し、すべての講義と実習の成績や、4 年次終了時の共用試験 CBT 及び 6 年次の卒業試験の結果を評価し、個別指導を行っている。 保健学科では、学習意欲や研究意欲を高めるため、毎年開催される広島保健学会学術集会や学内あるいは近辺で開催される研究会、学会の参加費を免除して積極的な参加を促している。</p>
歯学部	<p>歯学科では、歯学 CBT や歯学 OSCE の結果ばかりでなく、平成 19 年度からは、基礎系教育終了時点及び臨床実習開始前に専門教育の GPA と在籍学年中での成績順位を「もみじ」の電子掲示板により学生に伝え、自学自習を促している。6 年生には、国家試験に向けた学習への動機付けのため、通常の授業ではないが国家試験対策講座、臨床実習自主学習を開いている。 課外活動として工学系クラブと生物系クラブを設立し、ロボット作成や組織培養を通じて学習のモチベーションを高めている。これらは広島大学の奨励活動として認められ援助を受けている。 国際的に活躍できる学生を育てるため、平成 19 年度に開催した国際大学交流セミナーはもとより、平成 17 年度、19 年度に開催した歯学教育・研究国際シンポジウムでも、学生の研究発表や参加を促した。また台北医学大学歯学部から留学あるいは来校した学生を対象とした行事にも積極的に参加した。</p>
薬学部	<p>入学時から、7～8 名程度の学生に対して 1 名の教員をチューターとして配置し、学生の単位取得状況を勘案しながら個別に履修指導を行っている。 全教科とも試験は各学期間に 2 回以上行い、学生の学習意欲の維持、理解度の向上を図っている。 成績評価は、予めシラバス等で提示した基準に沿って、総合的に評価している。 WebCT を利用した授業については、学生は、オンライン利用可能な上記施設や自宅で授業内容を何時でも何處でも閲覧することができる。 過去の試験問題、演習問題も開示しており、学生が自身の理解度を把握でき、理解が足りない点を自主的に補うことができる。</p>
工学部	<p>主体的な学習を促す講義時間外、つまり 1 単位 45 時間の学習時間を確保するための学習の機会を、工学部では恒常的に提供されている。例えば、実験・実習に関する科目では、課題への答案を含めてレポート提出や面談を課し、大学院学生等によるゼミナールへの参加により研究の理解度を向上させる仕組みなどがあり、これらは JABEE 認定された教育プログラムでは外部評価されている。その他、教養科目には主体的学習を促すオリエンテーリングも兼ねた「教養ゼミ」が必修科目として入学直後から用意されている。一方で、授業内容と実社会との関連を理解し最新の研究開発動向を知る機会として外部研究機関や工場の見学、社会施設の訪問、企業人や本学部 OB を招いた講演会の開催の他、学術団体あるいは民間団体が主催するコンテストへの応募など、主体的な学習を促す取組がなされている。 他方で、外部機関による英語能力の評価や、GPA (Grade Point Average) のように学生の成績や達成度を定量的に評価するシステムを教育評価に利用し、それを学生に周知することも、主体的な学習を促す仕組みとして重要である。平成 17 年度より大学院入試における英語能力の判定を TOEIC のみで行い主体的学習による英語コミュニケーション能力の向上につながっている。GPA に関しては、平成 18 年度入学生から全学共通の GPA システムの利用が可能となり、工学部では、2・3 年次の課程配属や 4 年次の研究室配属、優秀学生の表彰制度への利用の他、平成 20 年 4 月入学者対象の博士課程前期推薦入試の選考基準に採用されている。さらに、「工学系数学統一試験 EMaT」は、個人の工学系数学の基礎学力を客観的に評価するものであり、受験者数も年々増加し主体的な学習を促す代表的な取組となってきている。以上のように工学部では、TOEIC-IP と GPA 導入、EMaT 実施は単位の実質化として平成 17 年度以降に確実に効果として表れている。</p>

学部等名	各学部の取組状況
	その他、学業成績等が不振の学生に対しては、セメスターごとの教員チューターによる個人面談や保護者への成績開示は学業に取り組む姿勢の改善につながっており、教員チューター制度も少なからず主体的な学習を促す取組となっている。
生物生産学部	<p>授業を理解する上で不可欠な予習や復習時間を確保するために、1年間で履修可能な単位数に制限を設けている。その旨を学生便覧に明記し、ガイダンスで説明している。</p> <p>GPAによる成績評価と「知識」、「技能」の到達度評価により、学習目標を立て易くしている。</p> <p>全学 Web 教育支援システムで、講義時間以外でも講義資料を閲覧し、予習及び復習ができる環境を整備している。</p> <p>プログラム制による学習プロセスの点検を、チューターと教務委員会とで行っている。</p> <p>他の主専攻プログラム学生に対する履修科目の開放による履修科目の選択機会の拡大を行っている。</p> <p>3年次後期からチューターに加えて複数の指導教員による指導体制を取り、授業時間外の学習指導を行っている。</p> <p>また、FDを実施して、授業時間外の学習指導に使える WebCT 使用講義数の増加を図った。</p>

(出典：各学部の自己点検・評価)

資料5-1-③-D 履修登録の上限

<p>(履修科目の登録の上限)</p> <p>第20条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部細則の定めるところによる。</p> <p>2 各学部細則の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、次学期に単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。</p>
--

※各学部の履修科目の登録の上限は、各学部細則に記載している。

(出典：広島大学通則)

各学部の状況は、別紙「大学現況票」に示す。

資料5-1-③-E GPA 制度の導入状況

<p>平成17年度に、GPAの導入の検討を行い、全学共通の算出方法や考え方を教育プログラム実施要綱に明示するとともに、プログラム毎の活用方法及び個別に使用する目的等については、各学部が定める学部細則において明記することとした。</p>
<p>VI 達成度の測定 (略)</p> <p>2. 平均評価点(GPA : Grade Point Average)の導入</p> <p>(1) 目的</p> <p>学生の教育プログラム履修における到達度の一指標として、全学的に算出方法を統一した平均評価点(GPA)を平成18年度入学の学部生(科目等履修生を除く)から導入する。本教育プログラムにおける平均評価点(GPA)の使用目的は、原則として次の項目に限定する。</p> <p>① 学生の修学支援の一環として平均評価点(GPA)を用いる。すなわち、チューターや指導教員が担当学生の学習状況を客観的に把握し、それに基づく指導を行いやすくするためのものである。この目的において、平均評価点(GPA)の具体的な活用方法は個々のプログラム担当教員が決定すべきものである。</p> <p>以下は、あくまでも例示であるが、学習指導以外にも、奨学金、交換留学の申請、転学部・転学科・転プログラムの際の指標に用いたり、履修単位数上限設定を導入している場合に単位の上限を超えて履修する基準としたり、成績優秀者の表彰や進路変更の指導、卒業の基準等にも利用することができる。</p> <p>② 学生が受講した個々の授業の成績評価を総合した達成度の測定の一指標として用いる。すなわち、授業科目の成績評価は、「知識・理解」及び「能力・技能」を総合して行い、達成度の測定に用いる。</p> <p>③ 各教育プログラムに登録した学生全体の平均評価点(GPA)分布を「教育の質的向上」に用いる。すなわち、教員会は担当するプログラムによる教育効果の絶え間なき向上を目指しPDCAサイクルを行うが、この際の教育効果到達度に関する定量的測定の一指標とする。</p>
<p>(平均評価点)</p> <p>学生が受講した個々の授業の成績評価を総合した達成度の測定は、次の算式で求める平均評価点(GPA : Grade Point Average)によって行う。</p> $\text{平均評価点} = ((\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) / (\text{総登録単位数} \times 4)) \times 100$

※学生が確認する画面は、別添資料5-1-③-2を参照

(出典：教育プログラム実施要綱)

資料5-1-③-F 学期区分, 1年間の授業時間

<p>(学期) 第8条 学年は, 前期及び後期の2期に分け, 前期を4月1日から9月30日まで, 後期を10月1日から翌年3月31日までとする。 (休業日) 第9条 学年中の定期休業日は, 次のとおりとする。 (1) 日曜日及び土曜日 (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日 (3) 創立記念日 11月5日 (4) 春季休業 4月1日から4月8日まで (5) 夏季休業 8月1日から9月30日まで (6) 冬季休業 12月24日から翌年1月7日まで (出典: 広島大学通則)</p>																																					
<p>授業時限について 授業時限は, 次のとおりとする。ただし, この授業時限において授業の実施が困難な場合は, 関係する部局間で調整の上, 別に定めることができるものとし, 別に定めた場合は, 遅滞なく, 学長に報告するものとする。</p>																																					
<p>1 昼間授業時間帯</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時 限</th> <th>時 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>8:45 ~ 9:30</td></tr> <tr><td>2</td><td>9:30 ~ 10:15</td></tr> <tr><td>3</td><td>10:30 ~ 11:15</td></tr> <tr><td>4</td><td>11:15 ~ 12:00</td></tr> <tr><td>5</td><td>12:50 ~ 13:35</td></tr> <tr><td>6</td><td>13:35 ~ 14:20</td></tr> <tr><td>7</td><td>14:35 ~ 15:20</td></tr> <tr><td>8</td><td>15:20 ~ 16:05</td></tr> <tr><td>9</td><td>16:20 ~ 17:05</td></tr> <tr><td>10</td><td>17:05 ~ 17:50</td></tr> <tr><td>9(※)</td><td>16:20 ~ 17:05</td></tr> <tr><td>10(※)</td><td>17:10 ~ 17:55</td></tr> </tbody> </table>	時 限	時 間	1	8:45 ~ 9:30	2	9:30 ~ 10:15	3	10:30 ~ 11:15	4	11:15 ~ 12:00	5	12:50 ~ 13:35	6	13:35 ~ 14:20	7	14:35 ~ 15:20	8	15:20 ~ 16:05	9	16:20 ~ 17:05	10	17:05 ~ 17:50	9(※)	16:20 ~ 17:05	10(※)	17:10 ~ 17:55	<p>2 東千田キャンパスにおける夜間授業時間帯</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時 限</th> <th>時 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>夜1</td><td>18:00 ~ 18:45</td></tr> <tr><td>夜2</td><td>18:45 ~ 19:30</td></tr> <tr><td>夜3</td><td>19:40 ~ 20:25</td></tr> <tr><td>夜4</td><td>20:25 ~ 21:10</td></tr> </tbody> </table> <p>(※)を付した時限は, 45分(1時限のみ)授業を実施する場合の時限を示す。 (出典: 授業時限について)</p>	時 限	時 間	夜1	18:00 ~ 18:45	夜2	18:45 ~ 19:30	夜3	19:40 ~ 20:25	夜4	20:25 ~ 21:10
時 限	時 間																																				
1	8:45 ~ 9:30																																				
2	9:30 ~ 10:15																																				
3	10:30 ~ 11:15																																				
4	11:15 ~ 12:00																																				
5	12:50 ~ 13:35																																				
6	13:35 ~ 14:20																																				
7	14:35 ~ 15:20																																				
8	15:20 ~ 16:05																																				
9	16:20 ~ 17:05																																				
10	17:05 ~ 17:50																																				
9(※)	16:20 ~ 17:05																																				
10(※)	17:10 ~ 17:55																																				
時 限	時 間																																				
夜1	18:00 ~ 18:45																																				
夜2	18:45 ~ 19:30																																				
夜3	19:40 ~ 20:25																																				
夜4	20:25 ~ 21:10																																				

参照資料 : *別添資料5-1-③-1 授業時限について
 別添資料5-1-③-2 GPAの確認画面
 別添様式 大学現況票
 別添資料Ⅱ-4 広島大学通則
 別添資料2-1-②-7 教育プログラム実施要綱

* 別添資料5-1-③-1については, 広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学生の主体的な学習を促し, 十分な学習時間を確保するための工夫として, 厳格な成績評価を実施するためにGPA制度を導入し, この制度を履修登録の上限設定に活用することにより, 十分な学習時間の確保につなげている。また, 手引き書の配布やレポート提出, 面談など, さまざまな取組を行っている。

特徴的な取組として, 情報メディア教育研究センターにおいて, 復習用LIVE教科書の作成やデジタルコンテンツの作成を推進している。

以上により, 単位の実質化に配慮している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

【観点に係る状況】

教養教育科目及び専門教育科目では、教育目的に沿った授業形態・学習指導法の工夫として、講義に加えて、少人数制セミナー、演習、実験、実習を取り入れている。教養教育において提供されている授業形態別の科目数は、資料5-2-①-Aに示すとおりである。

専門教育科目では、各学部の教育目的に沿って、それぞれの分野の特性に応じた科目構成を採っている。開講科目のうち特徴的な科目編成状況を資料5-2-①-Bに示している。それぞれの開講割合は各学部によって独自に設定され、専攻分野での特徴が見られる。また、特色ある学習指導法は資料5-2-①-Cに示すとおりである。

文部科学省大学教育改革支援プログラム等（特色GP、現代GP、質の高い大学教育推進プログラム等）に採択されたプログラムの実施状況は、資料5-2-①-Dに示すとおりである。

資料5-2-①-A 教養教育における各種の授業形態の状況（平成19・20年度実績）

区分	教養ゼミ	講義	講義 (双方向)	演習	実験	実習	講義・演習	講義・実験	講義・実習
平成19年度	234	525	8	763	36	97	1	25	1
平成20年度	234	526	7	768	36	98	1	24	1

(出典：大学での集計)

資料5-2-①-B 専門教育科目の授業形態別開講数（平成19・20年度実績）

学部名	年度	学部 共通科目	チュート リアル授業	少人数 授業	対話・討論 型授業	フィールド 型授業	講義・実験 等併用型	多様なメ ディア活用	情報機器 の活用	TAの活用	その他
総合科学部	平成19年度	2	—	—	1	7	—	1	22	51	1
	平成20年度	2	—	—	1	7	—	1	25	52	1
文学部	平成19年度	63	170	279	203	34	38	38	69	57	—
	平成20年度	48	160	282	211	33	42	42	107	65	—
教育学部	平成19年度	3	20	77	58	10	7	3	24	233	—
	平成20年度	3	21	76	64	9	8	6	26	235	—
法学部	平成19年度	3	—	3	5	—	—	8	—	29	—
	平成20年度	3	—	3	5	—	—	10	—	33	—
経済学部	平成19年度	4	—	—	3	—	—	3	4	36	※1 6
	平成20年度	4	—	—	3	—	—	2	8	33	※1 5
理学部	平成19年度	25	10	15	21	9	1	—	6	63	—
	平成20年度	25	10	15	21	9	1	—	6	66	—
医学部	平成19年度	—	2	10	—	—	4	1	—	55	—
	平成20年度	—	2	10	—	—	4	1	—	55	—
歯学部	平成19年度	7	1	11	3	4	1	—	3	37	—
	平成20年度	77	1	11	3	6	1	—	3	40	—
薬学部	平成19年度	1	1	1	—	1	—	—	1	—	※1 2
	平成20年度	1	1	1	—	1	—	—	1	—	※1 2
工学部	平成19年度	5	—	6	6	2	2	—	5	190	※2 1
	平成20年度	5	—	6	6	2	2	—	5	195	※3 1
生物生産学部	平成19年度	12	1	※4	2	9	—	1	1	42	※1 3
	平成20年度	13	1	—	2	10	—	1	1	32	※1 5

※1 WebCT を利用した授業を示す。

※2 協調型ノートテキング活動を示す。

※3 プロジェクト型を示す。

※4 学部の全ての講義科目数（実習と基礎専門科目などの大講義を除く）

(出典：大学での集計)

資料5-2-①-C 特色ある学習指導法

学部名	授業科目名	特色ある学習指導法の内容
総合科学部	超域科目	学生と教員（文系・理系双方が共同で担当）が異なる専門領域の考え方や方法論に基づいてディスカッションする「超域研究」と、卒業特別研究の練習ともなるミニ卒論を執筆して発表する「展開研究」の二本立てで構成している。
教育学部	野外地域教育実践	地域の方々の支援を受けながら東広島市全域から120名の子どもを募り、5月から12月の間、原則月1回子どもたちのための様々な体験活動を企画・運営する。
	英語圏フィールドリサーチ I	長期休業中に英国リーズメトロポリタン大学附属語学学校に短期留学（約1ヶ月）し、実践的英語力を向上させる。宿泊はホームステイを予定している。
経済学部	マクロ経済学 国際経済学 国際金融論	WebCT を使って授業時間中の効率的学習、および授業時間外の学習支援を行っている。
	資本市場の役割と証券投資 金融システム論 教訓から学ぶ金融システム論 金融論特講 ファイナンス 地方財政論 開発経済学とアジア 日本経済論 応用ミクロ経済学 進化するコミュニケーション	財務省、日本銀行、日本政策投資銀行、野村證券、電通西日本などの応援を得て、実践的授業を行っている。平成16年度から開講した左記授業は、5年間で延べ22科目にのぼる。
理学部	教養ゼミ 計算数理B 計算化学・同実習 有機化学演習 微生物学 生物科学英語演習 地球惑星科学概説B 地球惑星科学英語演習 宇宙化学	学生が互いに教えあうことによって学ぶ認知的学習法を演習形式で実施する協調演習
医学部	病因病態学 症候診断治療学	PBL テュートリアル教育
歯学部	医療倫理学 コミュニケーション学	薬害被害者、医療事故被害者、口蓋裂の患者等を招いて話を聞く機会を設けている。それをもとにグループ別に討論を行い、その結果を発表して、学生が相互評価している。 PBL チュートリアル教育を導入し実施している。
薬学部	コミュニケーション論	薬害被害者の方と泊まりがけで、合宿勉強会を行い薬害防止について話し合う。
工学部	機械創成実習	5人程度の小グループに分かれて歯車減速機を設計、製作し、コンペを開催して性能を評価する総合演習
	工作実習	数人の小グループに分かれて歯車ポンプの設計を行う。その後、材料の加工法や工作機械の使用法について学習後、実際にポンプを製造し、最終的にその性能を競う。
	教養ゼミ（第一類）	数人の小グループに分けて物理や機械工学の基礎的な概念に関する小実験を行い、その結果を競う。また、工場見学会を開催し、ものづくりの現場を見る。
	電気電子工学実験 II	最近の学生に不足している「ものをつくる」能力を高めるために、シャーシ工作を含めた定電圧回路の設計・試作を実験課題として取り入れている。
	システム工学実験 II	実社会でのソフトウェア製品の状況を認識させるために、ソフトウェアの作成から販売までのロールプレイを実験課題として取り入れている。
	化学工学実験	通常の実験授業における実験前の講義、実験、レポート作成、採点の後で、採点の結果を講評すると共にレポートを返却し、完成するまで面談を行う。また、面談では実験テーマに関する質疑応答も行き、専門知識などを完全に理解させる。

学部名	授業科目名	特色ある学習指導法の内容
工学部	化学工程設計	10人程度のグループで化学プラント全体を設計する実習。専門知識を総合的かつ創造的に活用し、効率的で環境にやさしい化学プラントを構築する能力を育成するためのデザイン教育授業
	教養ゼミ（第三類）	10人程度の学生が研究テーマを選定し、毎回の授業で調査結果を発表すると共に内容を議論する。最終授業では類全体で発表会を行う。調査、解析、討論、プレゼンテーションの能力育成と知的好奇心の喚起を目指した授業
	発酵工学プログラミング	バイオインフォマティクス関連のプログラミング課題を自学自習により作成・実行・改良を行う演習
	社会基盤環境デザイン	構造物の建設や施設の整備など、社会基盤に関連する解のない課題を提示し、与条件のもとで最適な解を学生に考えさせ、最終回にはプレゼンテーションを行い、実験・調査結果を発表させる。プレゼンテーションでは、プログラムの全教員が出席し、発表内容とともに質疑応答を踏まえて評価・採点を行う。評価項目は、プログラムにおけるこの科目の学習・教育目標に対応させて、5項目に細分化している。
	輸送機器環境工学プロジェクト基礎	製図の基礎、工作機械の取り扱い、空気エンジンラジコンの製作
	輸送機器環境工学プロジェクトⅠ	飛行機（グライダー）の設計・製作
	輸送機器環境工学プロジェクトⅡ	Paper Bicycle（ペーパーバイスクル）の設計・製作
	輸送機器環境工学プロジェクトⅢ	オリジナルマイクロ風車の設計・製作
	特別研究プロジェクトⅠ・Ⅱ	ミニ卒論（研究室に配属し個別指導）
生物生産学部	フィールド科学演習（専門基礎科目演習）やフィールド演習（里山、里海、果樹園芸の里、牧場）（選択科目）、農場実習や乗船実習（専門選択科目）	生物生産に関わるフィールド科学、自然科学から社会科学及び幅広い知識と技能、柔軟な思考力と俯瞰的な見地を身につけさせながら、基礎的および専門的応用展開能力を涵養させている。（学生便覧、シラバス）

（出典：各学部の自己点検・評価）

資料5-2-①-D 文部科学省大学教育改革支援プログラム等の実施状況

【特色ある大学教育支援プログラム】

プログラム名：高等教育のユニバーサルデザイン化（担当：教育室）		実施年度：平成16～19年度
教育への反映状況	音声認識技術を活用した情報保障支援方法の導入および、障害者支援の技術、電子情報技術・支援技術等の習得のための教養教育授業（障害者支援ボランティア概論、障害学生支援ボランティア実習）、オンライン講座等を行った。	
その効果	情報保障や障害者の支援技術、電子情報技術等の習得および支援方法の開発の実施により、学生を障害学生支援の推進者として育成し、社会へ送り出すとともに、学生のスキルアップによる自立度の向上が図れた。	
プログラム名：協調演習による理学的知力の育成支援（担当：理学部）		実施年度：平成19～21年度
教育への反映状況	理学融合教育研究センター主催の理学的知力教育FDを通じて、協調演習と強くリンクした講義・実験カリキュラムが学部全体で組み上がり、講義－演習－実験の教育相乗効果がもたらされた。また、化学便覧、実験化学講座等をネットワーク配信する「化学書資料館」及び講義関連資料を無線LANネットワーク経由で双方向に利用するための理学部オリジナルのe-learning環境を整備した。	
その効果	学生の知的好奇心及び使える知識をさらに磨き上げようとする学習意欲が向上し、グループ学習を通じた学生の協調性が向上するとともに、学生自身の学習方略指向性や意味理解指向性など学習観の変容が実現し、異なる授業の内容を関連付けて理解しようとする意識の向上が見られた。また、学生の予習・復習・自習を24時間支援する体制が構築され、学びたいときに学べる環境の中で学生の好奇心と探究心の向上と維持が実現した。	
プログラム名：工学系数学基礎学力の評価と保証（担当：工学部）		実施年度：平成17～20年度
教育への反映状況	「コア・カリキュラム」を含むカリキュラムに基づく授業実施の方向が出てきている。EMaT工学系数学統一試験が、そのような授業効果測定の標準的方策となることも広く認識されている。同時に、EMaTの過去問題が基礎力強化の演習に非常に有用であることが全国的に認知され、ネット上で公開のPDFファイルを、授業、演習、補習や自習に利用する大学が増えている。	
その効果	教員は、EMaT工学系数学統一試験により、授業効果の標準的測定機能を獲得し、効果を示す客観的データを迅速に収集でき、その結果を授業に反映できる。学生は自己啓発の場を獲得し、工学系数学基礎学力の客観的評価を得ることができる。人材育成の観点からは、工学系数学の基礎学力が保証された人材の育成につながっている。	

【現代的教育ニーズ取組支援プログラム】

プログラム名：学生提案型キャリア形成システム基盤構築（担当：キャリアセンター）		実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	フロントランナープログラムの実践において、キャリアパスガイダンスの開催やプロジェクト学習の方式を採用することで、学生の自主的・積極的取組姿勢を促すことにつながった。 本取組は、本学の教育目標「21 世紀の課題の解決に対し、挑戦する意欲を持ち行動を起こす人材育成」の実現をキャリア教育の視点から実践した。	
その効果	学生たちに主体的な企画・提案力、課題発見・解決能力を醸成するため、座学のみならずフィールドワークによる社会体験やキャリアパスガイダンス、意見交換会、活動報告会におけるプレゼンテーションを通して積極性や実行力を身につけることができた。また、チームワークの重要性やコミュニケーション力育成への関心も高まり、学習や大学生生活の充実につながった。	
プログラム名：子どもの心と学び支援プログラムの展開（担当：教育学部）		実施年度：平成 19～21 年度
教育への反映状況	にこにこルームで、心と学び支援の実習を行っている。平成 20 年度から、心理教育的支援実習Ⅰ、心理教育的支援実習Ⅱ、心理教育的支援実習Ⅲ（いずれも通年の授業）を開講した。	
その効果	実際に学習援助を経験した学生（担当群）と、学習援助を観察した学生（観察群）を比較すると、「保護者との関係」、「心理教育的支援についての知識の深まり」、「勉強の自主性」、「支援計画の立案」、「支援方法、支援技術」については、担当群の方が観察群よりできるようになったと自己評価していた。一方、にこにこルームでの実習の満足度、教育への態度、子どもとの関係、アセスメントについては両群とも評価は高かった。 このように、心理教育的支援の実践力育成については着実に成果が上がっている。	
プログラム名：地域連携薬剤師高度化教育プログラム（担当：薬学部）		実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	ロールプレイ型外来診療体験ソフト「患者百選」の充実の実施により、薬学生は、情報収集、ソフト作成を通じ、医療現場で体験する様々な臨床事象を外来患者情報として成文化することを体験できた。また、この外来患者情報を元に、教員と薬学生が共同作業により、社会的ニーズに有効に活用できるようにロールプレイ型外来診療体験ソフト用に加工することを体験できた。	
その効果	将来薬剤師を目指す薬学生は、自分たちの将来像を見据えて学習教材作成に参加することで、職能人、医療人としての具体的な目標が見えてきた。さらに、教員と薬学生が同じ目線で教材を作成することで、将来教育者としての素養を育むことができた。また、作成された教材は、薬学生と薬剤師が使用することで、より効率的な教材へと改良を図ることができるようになった。	
プログラム名：大学間連携によるフィールド教育体系の構築（担当：生物生産学部）		実施年度：平成 16～18 年度
教育への反映状況	中国・四国地区国公立大学農学系学部との単位互換授業科目として、本学部では学部の専門科目（選択）として 1 年生前期に開講している。本 GP は平成 16 年度～18 年度までの支援であったが、平成 19 年度以降も、開講科目を増やして実施している（学生便覧）。	
その効果	受講者にアンケートを実施しているが、その満足度は高い（実施報告書）。	

【地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム】

プログラム名：実践的ヒューマン・コミュニケーション教育（担当：薬学部）		実施年度：平成 18～20 年度
教育への反映状況	患者の痛みが理解・共感できる薬剤師育成に向けて、実習、演習などの学習と講義を取り入れた。	
その効果	学生たちは様々な患者の立場を理解する事ができる薬剤師に成長する自覚が形成された。	

【質の高い大学教育推進プログラム】

プログラム名：工学系数学基礎学力の評価と保証（担当：工学部）		実施年度：平成 20 年度～
教育への反映状況	工学系数学の講義には少人数演習を付随させ、特に一部科目では講義と演習を融合した授業を週複数回実施している。また総合演習科目については複数 TA を配置した少人数クラスで実施している。同時に教員が常駐した学習支援室において質問や学習相談などを受け、きめ細かい教育を行っている。	
その効果	少人数演習により各学生へ目が行き届き、基礎力が着実に修得されている。また、複数 TA の配置による少人数総合演習科目により応用力も養われてきている。学習支援室と授業が連携することにより学生個人の差異を吸収し理解度向上に効果を上げている。	

（出典：大学での集計）

【分析結果とその根拠理由】

授業形態の組合せは、教養教育科目では、多彩な内容に対応した多様な授業形態を取り入れ、学部ごとの教育目的に応じた選択が可能となっている。専門教育科目では、それぞれの専攻分野の教育目的と特性に応じた授業形態を取り入れ、それらのバランスを考慮した科目編成を行っている。

学習指導法では、各学部において特色ある指導法を実施している。

また、文部科学省大学教育改革支援プログラム等に多くのプログラムが採択され、教育改革を推進している。

以上により、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を行っている。

観点 5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

教育課程の編成の趣旨に沿って、資料 5-2-②-A に示すとおり、教養教育科目は 3 種類の様式に、専門教育科目は全科目統一した様式（別添資料 5-2-②-1）として、シラバスをウェブページで提供している。

シラバスの必要事項は、広島大学教育プログラム規則（資料 5-2-②-B）及び教育プログラム実施要綱に定めている。

シラバスは、広島大学学生情報システム「もみじ」の中に電子情報として格納し、入学時における学生オリエンテーションにおいて、「もみじ」の操作方法の説明を行い、シラバスの見方や利用法を指導している。

シラバスの整備状況について、「学生生活実態調査—学習と学生生活アンケート—」の結果では、資料 5-2-②-C に示すとおり、80%以上が満足している状況である。

資料 5-2-②-A 広島大学シラバス

学外公開用 URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/syllabus/2008/index.html>
 学生用 別添資料 5-2-②-1 「もみじ」履修登録・成績確認操作説明書

（出典：大学での集計）

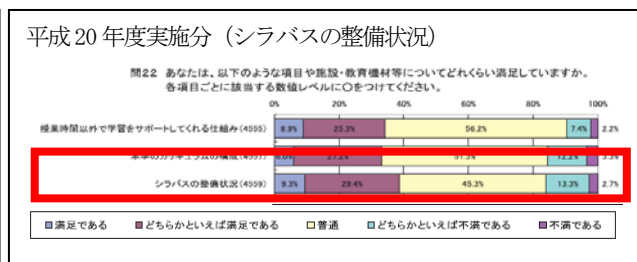
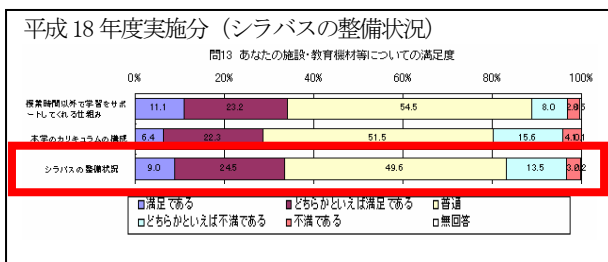
資料 5-2-②-B シラバスの内容

（シラバス）

第 13 条 教員は、担当する授業科目を学習する上で必要な情報をまとめたものとして、シラバスを作成するものとする。

（出典：広島大学教育プログラム規則）

資料 5-2-②-C 「学生生活実態調査—学習と学生生活アンケート—」結果



参照資料 : 別添資料5-2-②-1 シラバス様式(学士課程)
 別添資料5-2-②-2 「もみじ」履修登録・成績確認操作説明書
 別添資料2-1-②-7 教育プログラム実施要綱
 *別添資料5-1-①-1 広島大学教育プログラム規則
 別添資料6-1-③-1 広島大学学生生活実態調査の概要報告書
 別添資料6-1-③-2 平成20年度学生生活実態調査報告書

* 別添資料5-1-①-1については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

シラバスは、教養教育科目は3種類の様式で、専門教育科目は全科目統一した様式で作成しており、ウェブページでの公開等の取組により、学生の活用を促進している。また、学外にも広く公開している。

シラバスの整備状況について、学生アンケートの結果では、80%以上が満足している状況である。

以上により、教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスを作成し、活用している。

観点5-2-③： 自主学习への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点到に係る状況】

学生の自主的な学習を支援するために、前掲資料5-1-③-A及び資料5-1-③-Bに示すとおり、学生の授業前後の学習活動を支援している。

図書館及び情報端末室の利用時間、講義室の開放を含めた自習室の設置状況は、後掲資料7-2-①-A、後掲資料7-2-①-Bに示すとおりである。

また、高等学校等で学習していないことなどによる基礎学力不足学生への配慮として、前掲資料5-1-②-Dに示すとおり補充教育を実施するとともに、資料5-2-③-Aに示すとおり教養教育の学習理解の一層の向上を図るため、教員又は大学院学生が正課外で補充的に学生の学習支援を行う学習支援室を設置している。

資料5-2-③-A 学習支援室

名称	キャンパス	設置場所	内容	利用時間
学習支援室	東広島	西図書館 3階	学生が教養教育の授業を履修するに当たり、学習理解の一層の向上を図るため、教員又は大学院学生が正課外で補充的に学生の学習支援を行う。	平日 16:30~18:30 ※休業日及び西図書館閉館日利用不可

(出典：広島大学学習支援室内規)

利用者状況

(単位：人)

科目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
英語	7	20	14	17	11
化学	36	15	22	17	46
数学	33	20	26	26	25
生物	0	0	2	3	—
物理	14	25	26	29	55
計	90	80	90	92	137

(出典：大学での集計)

参照資料 : 別添資料5-2-③-1 広島大学学習支援室内規

【分析結果とその根拠理由】

自主学習への配慮から、授業の予習復習のために、復習用 LIVE 教科書の作成やWebCT100 プロジェクトを実施している。また、施設としては図書館及び情報端末室、講義室の開放を含めた自習室も確保している。

基礎学力不足の学生については、高校での未履修科目の授業の開設や学習支援室を活用した相談体制を整備している。

以上により、自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等を組織的に行っている。

観点 5-2-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では、法学部及び経済学部にて夜間主コースを設けている。

各学部夜間主コースでは、授業時間帯の制限により履修可能なコマ数が少ないことや勤労学生の教育や社会人の生涯学習の場としての特質にふさわしい履修基準を設けている。それが、法学部では「自主選択枠」であり、経済学部では「自由科目」である。「自主選択枠」あるいは「自由科目」により各自の知的関心と必要に応じて総合大学である広島大学の利点を活かした幅広い科目から柔軟に履修できるよう配慮している（資料 5-2-④-A）。

また、教養教育においては、東千田キャンパスにおいて夜間主コースの学生のために「教養教育総括担当者」を設けて履修指導等を行っている（別添資料 5-2-④-1）。

その他の状況は、資料 5-2-④-B から E に示すとおりである。

資料 5-2-④-A 授業時間及び卒業要件単位数

授業時間		卒業要件単位数		
東千田キャンパスにおける夜間授業時間帯		科目区分	法学部	経済学部
時 限	時 間	教養教育科目	32単位	38 単位
夜 1	18 : 00 ~ 18 : 45	専門教育科目	72単位	66 単位
夜 2	18 : 45 ~ 19 : 30	自主選択枠	20単位	—
夜 3	19 : 40 ~ 20 : 25	自由科目	—	20 単位
夜 4	20 : 25 ~ 21 : 10	計	124単位	124 単位

(出典：各学部細則)

資料 5-2-④-B 履修単位の上限

法学部	経済学部
1 学期に履修登録をすることができる単位数 24 単位	1 年間に履修登録可能な単位数 44 単位

(出典：各学部細則)

資料 5-2-④-C 他コース等の履修

法学部	経済学部
認定対象となる授業科目 昼間コース授業科目 昼間に開講される他学部の授業科目 放送大学	認定対象となる授業科目 昼間コース授業科目 昼間に開講される他学部の授業科目 放送大学

法学部	経済学部
教育ネットワーク中国 単位互換制度により他大学等で開講される授業科目 認定単位数 40単位を限度(編入学生含む)として履修区分に従い卒業要件に含める。 ただし、昼間コース及び夜間主コースの双方において開講される専門科目で、同一名とみなす授業科目の重複履修は認めない。	教育ネットワーク中国 単位互換制度により他大学等で開講される授業科目 認定単位数 40単位を限度(編入学生は20単位を限度)として履修区分に従い卒業要件に含める。 ただし、昼間コース及び夜間主コースの双方において開講される専門科目で、同一名とみなす授業科目の重複履修は認めない。

(出典：各学部細則)

資料5-2-④-D その他の履修上の配慮

法学部
メディアを利用して行う授業により修得した単位 60 単位を限度として、科目区分に従い、卒業要件単位として算入することができる。

(出典：法学部細則)

資料5-2-④-E 多様なメディアを利用した履修指導状況

学部名	指導状況
法学部	昼間授業時間帯に昼間コース(東広島キャンパス)と夜間主コース(東千田キャンパス)との間で双方向授業を実施している。
経済学部	昼間授業時間帯に昼間コース(東広島キャンパス)と夜間主コース(東千田キャンパス)との間で双方向授業を実施している。また、WebCT等を活用して、授業時間外の学習支援をしている。

(出典：各学部の自己点検・評価)

- 参照資料：
- 別添資料5-2-④-1 法学部・経済学部夜間主コースの教育責任体制について
 - 別添資料5-2-④-2 各学部夜間主コース授業時間割表
 - 別添資料5-2-④-3 東千田キャンパスの教養教育授業時間割表
 - *別添資料Ⅱ-6-4 広島大学法学部細則
 - *別添資料Ⅱ-6-5 広島大学経済学部細則

* 別添資料Ⅱ-6-4, 5については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

夜間主コースの学生のための「教養教育総括担当者」、「自主選択枠」あるいは「自由科目」など、夜間において授業を実施している課程に在籍する学生に配慮した教育課程、時間割を設定している。

以上により、夜間において授業を実施している課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等を行い、適切な指導を行っている。

観点5-2-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業(添削等による指導を含む)、放送授業、面接授業(スクーリングを含む)若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

教養教育及び専門教育の単位の授与、成績評価基準や卒業認定基準は、それぞれの教育目的に沿って、広島大学通則(資料5-3-①-A)、学業成績評価の取扱いについて(資料5-3-①-B)及び各学部の規則に定めている。

これらの単位の授与、成績評価基準や卒業認定基準は、学生便覧やシラバス、学部別ガイダンス(後掲資料7-1-①-A)において、学生に周知している。

単位の授与、成績評価は、定められたそれぞれの基準に基づき、各学部において認定している。

卒業認定については、卒業認定基準に基づき、各学部の教授会の議を経て、当該学部長が卒業認定を行っている。

資料5-3-①-A 単位授与、成績評価、卒業の要件

(単位の授与)

第19条の4 一の授業科目を履修した者に対しては、試験及び出席状況により所定の単位を与える。ただし、前条第2項の授業科目については、各学部の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(授業科目の成績評価)

第19条の5 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可及び不可の5段階とし、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

(卒業の要件)

第44条 第4条に規定する修業年限以上在学し、かつ、所定の授業科目を履修し、各学部において定める卒業の要件として修得すべき単位数(124単位以上、医学部医学科及び歯学部歯学科にあつては188単位以上、薬学部薬学科にあつては186単位以上(将来の薬剤師としての実務に必要な薬学に関する臨床に係る実践的な能力を培うことを目的として大学の附属病院その他の病院及び薬局で行う実習に係る20単位以上を含む。))を修得した者には、当該学部の教授会の議を経て、学部長が卒業を認定する。

2 前項の規定による卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第19条の2第2項の授業の方法により修得することができる単位数は次のとおりとする。

- (1) 卒業の要件として修得すべき単位数が124単位(医学部医学科及び歯学部歯学科にあつては188単位、薬学部薬学科にあつては186単位。以下同じ。)の場合は、60単位を超えないものとする。
- (2) 卒業の要件として修得すべき単位数が124単位を超える場合は、第19条の2第1項の授業の方法によって64単位(医学部医学科及び歯学部歯学科にあつては128単位、薬学部薬学科にあつては126単位)以上の修得がなされれば、60単位を超えることができる。

(早期卒業)

第45条 本学の学生(医学部医学科、歯学部歯学科及び薬学部薬学科に在学する学生を除く。)で当該学部に3年以上在学したものの(これに準ずるものとして文部科学大臣の定めるものを含む。)が、卒業の要件として修得すべき単位を優秀な成績をもって修得したと認められ、かつ、当該学部において学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第147条に定める要件を満たしている場合には、第4条の規定にかかわらず当該学部の教授会の議を経て、学部長が卒業を認定することができる。

(出典：広島大学通則)

資料5-3-①-B 学業成績評価の取扱い

○学業成績評価の取扱いについて

平成18年4月1日
副学長(教育・研究担当) 決裁

I 学部学生の学業成績評価及び平均評価点(GPA: Grade Point Average)について

1. 学業成績評価の取扱いについて

学業成績の評価については、以下の方法によるものとする。

(1) 授業科目の成績評価

次のいずれか又は併用によるものとする。

① 秀、優、良、可、不可の5段階評価とする。

秀優良可の基準は、100点満点で採点した場合に、90点以上を秀、80~89点を優、70~79点を良、60~69点を可とし、60点未満は不可(不合格)とする。

<p>② 0～100 点の点数評価とする。 60 点未満は不合格とする。</p> <p>(2) 到達度の評価 教育プログラムが詳述書で定めた「到達目標評価項目と評価基準の表」の各項目に基づき、基準に到達している場合の評価は、「非常に優れている」、「優れている」、「基準に到達している」の3段階評価とする。 ただし、到達度評価項目について「基準に到達しなかった」場合、及び当該項目の評価を行うことができなかった場合は、到達度評価結果を到達度評価表に記載しないこととする。</p> <p>2. 平均評価点(GPA : Grade Point Average)について 本学共通の平均評価点(GPA : Grade Point Average)の算出方法等については、以下の方法によるものとする。 なお、各学部の事情により、以下と異なる方式を定め実施することも可能とする。 [計算式]</p> $\text{平均評価点} = \frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{総登録単位数} \times 4}$ <p>(1) 平均評価点は、小数点第3位以下を切り捨てるものとする。 (2) 各学期(直前の期)及び通年(入学後から直前の期)で計算するものとする。 (3) 本学での授業科目を履修したもののみを計算の対象とする。ただし、入学以前に本学での授業科目を履修している場合は計算から除外する(再入学した者を除く)。 (4) 学士入学として入学した場合で、入学以前に本学での授業科目を履修している場合は計算から除外する。</p> <p>II 大学院学生及び専攻科学生の学業成績評価について 優, 良, 可, 不可の4段階評価とする。 優良可の基準は, 100 点満点で採点した場合に, 80 点以上を優, 70～79 点を良, 60～69 点を可とし, 60 点未満は不可(不合格)とする。 ただし, 学部開講の授業科目を履修した場合の成績の評価については, 上記 I - 1 - (1)に基づき行うこととする。</p> <p>III 適用について 1. この学業成績評価の取扱いは, 平成 18 年度入学生から適用する。 2. 平成 17 年度以前に入学した者の学業成績評価の取扱いについては, この取扱いにかかわらず, なお従前の例による。</p>

(出典：学業成績評価の取扱いについて)

参照資料 : 別添資料Ⅱ-4 広島大学通則
別添資料 学生便覧

【分析結果とその根拠理由】

単位の授与、成績評価基準や卒業認定基準は、規則等として明確に定めており、学生便覧やシラバス、学部別ガイダンス等において学生に周知している。

これらの基準に基づき、単位授与、成績評価、卒業認定を実施している。

以上により、教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定し、学生に周知されており、これらの基準に沿って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点 5-3-②： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

成績評価等の正確性を担保するために、観点 5-3-①において述べたとおり、成績評価の基準をシラバスに明示し、成績評価の基準に沿った成績評価を行っている。また、評価基準が担当教員の裁量のみには任されないう、各学部の主専攻教育プログラム毎に設置している教育プログラム担当教員会において評価基準の妥当性を確認している。

教員が情報ネットワークシステムを使用して成績を提出し、適正な成績処理が確認された後、学生がネット上

で自分の成績を確認することができ、学生からの成績に関する照会等については、チューターや授業担当教員が対応している。

学部等の成績評価等の正確さを担保するための取組例は、資料5-3-②-Aのとおりである。

資料5-3-②-A 成績評価等の正確さを担保するための取組例

学部名	取組状況
全学部	成績評価の基準をシラバスに明示し、成績評価の基準に沿った成績評価を行うことで成績評価の正確さを担保している。 評価基準が担当教員の裁量のみにならないう、教育プログラム担当教員会において評価基準の妥当性を確認している。 教員が情報ネットワークシステムを使用して成績を提出し、適正な成績処理が確認された後、学生がネット上で自分の成績を確認している。 「チューターの手引き」に、学業成績に関して相談指導するように明記している。
教育学部	学生から申立てがあった時のために、成績評価の根拠となる答案等を5年間保管している。
法学部	成績評価について申立てを行う学生に対応できるよう、答案等評価に用いた資料を担当教員が保管している。
経済学部	各教員は成績評価の根拠となる答案を保管しているだけでなく、FD等で利用している。
医学部	各学科会議で進級判定を通じてチェックを行っている。
歯学部	各学年あるいはセメスターまでに修得すべき科目のうち、3科目以上の未修得科目がある場合は進級できない制度になっている。 各セメスター終了時に、歯学部長室会議並びに教授会での成績認定及び進級判定を通じてチェックが行われている。
工学部	8プログラム中6プログラムがJABEE認定を受けている。
生物生産学部	全ての答案やプリントなどの成績に関する証拠書類は、教員の他に事務的に集約整理しており、問題があった場合には、その資料を用いて再検証することができる。 学生が成績に疑義のある場合の対応方法を、平成21年度学生便覧に掲載している。

(出典：各学部の自己点検・評価)

【分析結果とその根拠理由】

成績評価等の正確性を担保するために、成績評価の基準をシラバスに明示し、成績評価の基準に沿った成績評価を行うことで成績評価の正確さを担保している。また、評価基準が担当教員の裁量のみにならないう、教育プログラム担当教員会において評価基準の妥当性を確認している。

成績が開示された後に情報ネットワークシステムを使用して学生が自分の成績を確認することができ、学生からの成績に関する照会等は、チューターや授業担当教員が対応している。

以上により、成績評価等の正確さを担保するための措置を講じている。